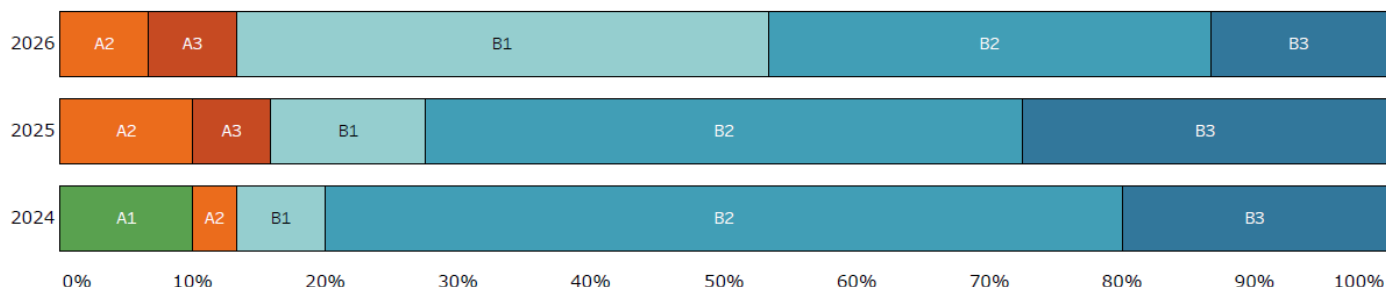


2026 年 駒場東邦 算数

過去 3 年の思考コード別出題割合は次のようになります（A は基礎的な知識・技術、B は論理的な思考力が問われる問題。数字が大きいほど難度も高い）。高度な論理的思考力が求められる B2、B3 の問題の割合が減り、取り組みやすい印象を受けました。



記憶している限り、2024 年、2022 年はかなり手ごわい問題が並んでいたと思います。気になったので、過去の合格者平均点を調べてみると右のようになっていました。2026 年の合格者平均点は 90 点を超えてくるのではないかと思います。そのため、確実に得点しておきたい問題を落としてしまうと、大きな痛手となります。

2025年	84点
2024年	66点
2023年	90点
2022年	42点
2021年	73点

2026 年は、立体の切断はありませんでしたが、平面図形、立体と水位、作図、場合の数と、駒東頻出の分野が並びました。とりわけ、作図の対策は欠かせません。（120 点満点）コンパス、定規を使つての作図はもちろん、ある程度フリーハンドでも描けるようにしておきたいです。

大問 1 は、例年通り一行題の構成でしたが、例年よりも問題数が少ない印象を受けました。(1)は、分母が 2026 となります。分配法則を用いて確実に得点したいです。(2)は、仕事算でした。2 人とも 6 時間仕事をしている点に着目します。(3)は、駒東頻出の平面図形でした。DE と CB を延長して相似な三角形をつくって考えます。大問 1 はすべて落とさないようにしたいです。大問 2 は、立体と水位の問題でした。立方体の水そうの中に立方体の積み木を積み上げ、水を入れていきます。(1)は、水そうを正面から見た図に置き換え、水位変化の様子を捉えていきます。(2)はつるかめ算を利用します。計算ミスに気を付けて、確実に得点しておきたいです。

大問 3 は、図形の回転でした。おうぎ形の移動となりますが、駒東志望者であれば一度は取り組んだことのある内容だと思います。(1)は確実に得点したいです。(2)は、頂点 C までの動きをしっかりと捉えます。後は同じ動きを 2 つ描くだけとなるので、おうぎ形の中心角をミスしないように気を付けます。この作図を手際よく処理できれば、後続の大問 4 に時間を回すことができます。大問 4 は、約束記号を利用した場合の数でした。この問題にどれだけ時間を使えたかで差が付いたと思います。(2)は、 $\langle N \rangle$ と N が等しくなる場合となるため、「6」と「9」の位置に着目して考えます。(2)までは確実に得点して、(3)にじっくり取り組むか・他の見直しに時間を回すかの二択なのかなと思います。

例年に比べてかなりハードルが下がった印象を受けました。大問 4(3)を除き、どれも得点しておきたい問題だと思います。今回は高得点勝負が予想されるため、大問 4(3)を見送り、残りの時間を見直しに当て、失点を防ぐ方が賢明かもしれません。